

## 国際英語学部国際英語学科 学位授与の方針

---

国際英語学部国際英語学科は、定められた課程を修め、以下の全専攻共通と各専攻固有に掲げる学修成果をあげた者に対して学士（国際英語学）を授与します。

### <学修成果（教育目標）>

#### 《全専攻共通》

1. 国際英語学に関する専門的知識、又はその知識を、専門以外の様々な分野に応用して自ら導き出した科学的・学問的な意見を英語及び日本語で論理的に表現できる。
2. 国際英語学に関する専門的知識だけでなく、幅広い教養と総合的な判断力を保持し、道徳・倫理・社会通念に即した行動ができ、かつ、自分の創造的な考えを企画発信できる能力を身につけている。
3. グローバル化時代に必要とされる高度な英語運用能力（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）を有し、異文化に対する柔軟な理解力を持って世界の多種多様な人々と積極的にコミュニケーションができる。
4. コンピュータ等の情報機器を使って英語圏文化の幅広い情報や知識を収集でき、それらを客観的に評価できる。

#### 《各専攻固有》

##### [国際英語キャリア専攻]

国際英語キャリア専攻は、言語の本質に対する深い理解や言語使用に対する鋭敏な感性を背景とした高度な英語運用能力と、国際的視野に立つ豊富な専門知識や技術を有し、国際実務や教育、研究の分野で即戦力となりうる人材の育成を図ります。また、言葉に対する体系的理解を深める中で論理性や建設的批判能力を高め、さらに、教育課程における主体的な学びを通して、あらゆる局面に主体的かつ自律的に対応する能力を身につけることによって、国際社会にあって真に自立しリーダーシップを発揮できる人材の育成を図ります。

5. 高度な専門的議論や公式文書の作成・翻訳等に対応可能な高度な言語運用を行える。
6. 言葉に対する体系的理解や論理思考力を有し、それらを言語使用に活用できる。

7. ICT を含め、国際実務や教育に資する知識や技術を高め、それらをあらゆる活動の場に応用できる。

#### [英語圏文化専攻]

英語圏文化専攻は、英語を日常語として使用するイギリス・アメリカ両国の歴史・思想・文化を始め、公用語として英語を用いる国々の歴史・思想・文化を科学的・学問的な視点から複眼的、かつ、体系的に理解するための専門的知識及び幅広い教養を修得します。また、グローバル化時代における英語圏文化の多様性を理解すると共に、現在の異文化交流の可能性とその問題点を自主的・主体的、かつ、倫理的に分析できる判断力も身につけます。なお、本専攻の卒業生は、グローバル化時代において必要とされる高度な英語運用能力及び情報収集・処理能力を養い、世界の多種多様な人々と協力・協働し、世界各国の持続可能な発展に向けて貢献できる人材となることが期待されます。

8. 英語を日常語として使用するイギリス・アメリカ両国を始め、公用語として英語を用いる国々の文化、すなわち広範な英語圏諸国の文化に関する知識を科学的・学問的な視点から複眼的、かつ、体系的に理解できる。
9. 英語圏文化の多様性を総合的に把握し、グローバル化時代に相応しい異文化交流の可能性と、その問題点を自主的・主体的、かつ、倫理的に探究できる。
10. グローバル化社会の一員としての社会的責任とリーダーシップ精神を常に意識しつつ、世界の幅広い人々と協力・協働し、世界各国の持続可能な発展に向けて生涯にわたり自律的に学修できる。

#### [国際学専攻]

国際学専攻は、世界中の英語変種を認め合うという国際英語の視点に立ち、広く西洋と東洋の社会・歴史・文化・思想・宗教を踏まえた英語コミュニケーション能力の育成を行います。あわせて、IT 技術や時事問題の知識等、ビジネスに応用できる汎用性のある知識・技能を培い、英語のスキルと国際的視野をあわせ持つ世界に通じる教養人・職業人を養成します。さらに、英語圏に加えて新興国における研修を通して、語学力、職業上の専門知識及び異文化適応力の養成を目的とします。

11. 他者の行動に影響のある説得や交渉を英語で行うことができる。
12. 積極的に他者と協力しながら学修活動に参加できる。
13. 自発的・自立的に課題を発見し、効果的な方法で調査し、論理的に分析・議論をし、かつ、「伝える」表現でまとめることができる。